

ヒアリング古典　　百人一首　　百人一首⑧

名前

「

」

夕されば門田の稻葉おとづれて

蘆のまろやに秋風ぞ吹く

音に聞くたかしの浜のあだ波は

かけじや袖の濡れもこそすれ

祐子内親王家紀伊

高砂の尾上の桜咲きにけり

外山の霞立たずもあらなむ

權中納言匡房

憂かりける人を初瀬の山おろしよ

はげしかれとは祈らぬものを

源 俊頼朝臣

契りおきしさせもが露を命にて

あれ今年の秋もいぬめり

藤原基俊

ヒアリング古典　　百人一首　　百人一首⑧

名前　「

」

わたくしの原漕ぎ出でてみればひさかたの

雲居にまがふ沖つ白浪

法性寺入道前関白太政大臣

瀬をはやみ岩にせかるる滝川の

われても末にあはむとぞ思ふ

崇徳院

淡路島かよふ千鳥の鳴く声に

幾夜ねざめぬ須磨の関守

源 兼昌

秋風にたなびく雲の絶え間より

もれ出づる月の影のさやけさ

左京大夫顕輔

長からむ心も知らず黒髪の

乱れて今朝は物をこそ思へ

待賢門院堀川